

医学系研究実施のお知らせ

医学系研究「本学病院受診患者における顎骨隆起の発生に関する調査」に関する 研究実施のお知らせについて

当院では、最適な治療を患者さんに提供するために、病気の特徴を研究し、診断法、治療法の改善などを目指す医学系研究を行なっています。そのような医学系研究の一つとして、この研究も行われております。

このお知らせ文は、この研究の実施について皆様にご覧いただき、研究内容を正しく理解していただくと同時に、対象者となられる方が研究不参加を望まれる場合にはその意思表示をしていただくためのものです。

なお、この研究は福岡学園倫理審査委員会の承認と、研究機関の長（福岡学園理事長水田祥代）からの許可を受けています。この研究が許可されている期間は、2022年3月31日までです。

1. 研究の対象となる方の条件

2015年4月1日から2020年3月31日までに、当院放射線科を受診された患者さんで上下顎単純CT撮影を受けた方全員が対象です。本研究への不参加を希望の方は対象から除外いたします。

この研究において、ご自身の診療情報等が利用されることを望まれない場合は、お手数ではありますが、下記相談窓口の担当者連絡先まで、ご一報ください。

2. 研究の目的や意義について

近年、いくつかの臨床研究報告で顎骨隆起が有用な骨補填材になり得る可能性が示唆されているものの、顎骨隆起の病態に関する基礎的なデータは少なく、骨補填材としての適性について科学的根拠は示されていません。

そこで本研究では、エックス線CT画像を用いて従来行われてきた形態学的調査（発生頻度や性差、形状等）に加えて、内部の骨構造、骨質および体積等の詳細な骨形態計測およびMischの分類を用いた臨床的な骨質診断を行います。顎骨隆起と健常の骨とを比較することで顎骨隆起の病態について知見を深めるとともに、顎骨隆起が有用な骨補填材になり得るか基礎的データの収集を行います。

（*Mischの分類：Carl Mischが提唱したCT値を利用した骨質分類で、客観的な骨

質診断法として歯科インプラント学分野で広く受け入れられています。)

本研究結果は顎骨隆起の病態に関する基礎的な知見を提供するとともに、顎骨隆起の組織学検討を行う発展研究における予備的データとして有用です。また最終的には、臨床の現場において患者様に人工材料の有する欠点（人工材料のかかる費用、感染に対する免疫反応、等）を補った代替の治療手段を提供できる可能性があるため学術的および社会的意義は大きいと考えられます。

3. 研究の方法について

この研究を行う際は、対象となる方の診療録より以下の情報を取得します。

[取得する情報]

電子カルテ：CT撮影時年齢、性別、既往歴、服用薬剤、欠損歯に関する情報

CT画像：顎骨隆起の発生部位・大きさ・形状・体積・CT値

※CT値とは、CT画像上でいわゆる骨密度の指標となる値を指します。

上記の取得情報を基に、顎骨隆起の発生頻度や好発年齢、その他の因子と骨隆起発症との関連性、さらにCT画像による骨隆起自体の性状を調査します。

4. 試料や情報の管理について

この研究において研究対象者から得られた情報は、研究終了後、福岡歯科大学咬合修復学講座冠橋義歯学分野において同分野教授の松浦尚志の責任の下、10年間保存した後、研究用の番号等を消去し、廃棄します。

5. 研究に関する情報や個人情報の開示について

この研究に参加して下さった方々の個人情報の保護や、この研究の独創性の確保に支障がない範囲で、この研究の研究計画書や研究の方法に関する資料をご覧いただくことができます。資料の閲覧を希望される方は、ご連絡ください。

6. 研究の実施体制について

研究実施場所 (分野名等)	学校法人 福岡学園 福岡歯科大学 咬合修復学講座冠橋義歯学分野
研究責任者	福岡歯科大学咬合修復学講座冠橋義歯学分野 教授 松浦 尚志

7. 相談窓口について

この研究に関してご質問や相談等ある場合は、下記担当者までご連絡ください。

事務局 (相談窓口)	福岡歯科大学咬合修復学講座冠橋義歯学分野 助教 柴口 塊 連絡先：〔TEL〕 092-801-0411 (内線 8468) 〔FAX〕 092-801-0475 メールアドレス：shiba@college.fdcnet.ac.jp
---------------	--

(作成日：2020年3月12日 最終修正日：4月1日)